



静寂の美



＝メリハリ＝

日本の伝統的な“音”に関する用語。「める」は“めいる”“ゆるむ”の意味、「はる」は“張る”の意味から来ており、音を低め、または弱めに発したり、高め、または強めに発する技術。歌舞伎では特に台詞(セリフ)の言いまわし方の強弱や高低、伸縮などの技術を指します。現在は、“音”以外にも、「仕事にメリハリをつける」などの比喩的な表現で使ったりします。簡単に言えば、『物事を実行するにあたって、必要に応じて強弱や緩急をしっかりとつける』という意味になります。

静寂の美

北中生徒の適応能力の高さに驚いています。
委員会から提案された“校門一礼”は、ほぼ定着
しました。集会時の“無言入退場”も、年度当初とい

くらべかに付かない程しっかりと取り組んでくれています。ひたひたの意識の高さのあらわれですね。

さて、今回は“授業前黙想”についてお話をします。私は個人的にこの“黙想”の時間が好きです。106名の生徒が並列するこの空間で、10人の数秒間でも、落ち着いて静けさを生み出します。だけど、この静けさは数秒間もよく耳を聴くと、いつもはありえない音が耳に入ります。小鳥の鳴き声や時計の秒針が進む音、風の音などです。さきほどおんげに騒がれていた教室が、うそのように静かになります。学校生活の中には、場面によって雰囲気や心臓の状態もそれぞれ異なります。そんな中で、じっくりと心を静めて自分を振り返ったり、気持ちをリセットする場面、そして貴重だと思うのです。いつも笑顔と活気のある教室も、“この空間だけは静かな”静寂の時間にしてほしいと思います。ここを大切にできる人になれば、例えば誰かが前に出て話としていたら、私語とせず話を聴く人になるだろうし、放送が流れたら黙ってその言葉に耳を傾けられるようになるはずです。静かな時間を大切にするということは、“人と、物事を大切にすること”につながるのです。

だけど、騒がしい(元気がいい)のは嫌いではありません。“遊び”“学び”…要は“メリハリ”が大切で、この“静寂の美”を感じとれる人になってほしいと思っています。

満足の度合いは自分の心が決める

各教室から、なつかしいメロディが耳にとびこります。昔、子どもたちと一緒に歌った曲が流れると、ふたつ口ずさんでいます。先日は、合唱練習の、自分たちのクラスが演奏の、バクとも見えてきたのではいはいはい。このクラスがサポートです。

私の歌のセリフはありません。ほんとに大切なこととポイントにしてみました。よく参考にして下さい。ちなみに私は『10』歌詞への共感と最も大切にしています。

どのクラスも“金賞”そして“最優秀賞”を目指しています。順位を上げるコンクールから、目標を高くするのは当然のことです。努力せずに金賞がとれるとは思いませんが、当日はどんな結果になるかわかりません。努力は裏切ることありません。

伝えたいのはここからです。

“満足の度合いは結果が決めるのか? 違います。自分の心が決めるのです。コンクールの結果が金であろうと銀であろうと、みんなが満足感と達成感に満ちた姿が見たいです。もし、自分のクラスの頑張った努力が裏切られた時…その時に後悔しないように、金や銀を残さず練習を頑張ってください。当日は、青春ドラマのワンシーンを見てください!!



合唱づくりのポイント

- 1 何と言っても「クラスの和」
- 2 正しい「姿勢」と豊かな「表情」
- 3 出遅れないための「呼吸」
- 4 遠くに飛ばそう「声の響き」
- 5 「発音」「言葉」をはっきりと
- 6 正しい「音程」
- 7 「リズム」と「音の長さ」
- 8 「ハーモニー(和音・バランス)」
- 9 「メリハリ(強弱・テンポ)」
- 10 かみしめよう「歌詞への共感」
- 11 「鑑賞態度」も大切

青春ドラマのワンシーンのような
心に響く合唱を!!